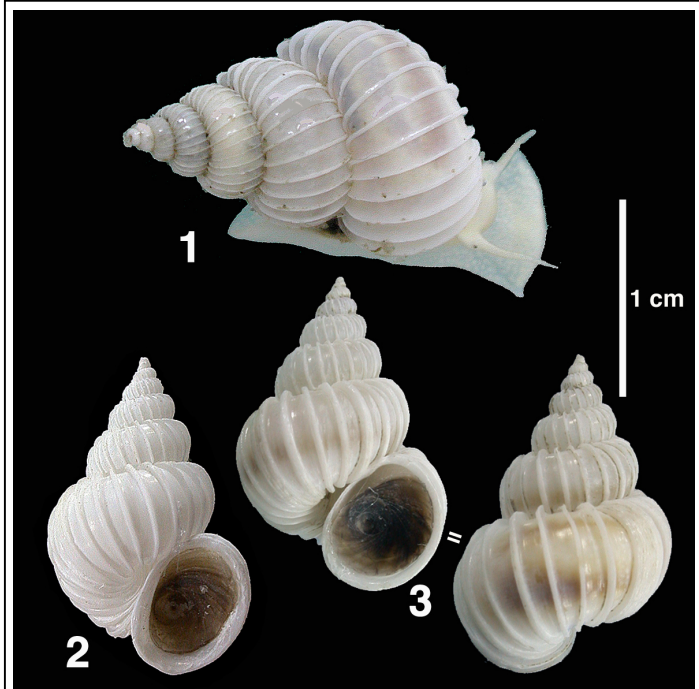


セキモリ *Epitonium robillardi* (Sowerby III)

【選定理由】

本種は内湾奥の潮下帯砂泥底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は豊川河口域、三河湾奥（蒲郡市沖）などで生貝が採集されているが、個体数は非常に少ない（木村, 1996；松岡ほか, 1999）。その後の調査で名古屋港沖（木村, 2010）、三河湾島嶼域（早瀬・木村, 2020）等で生息が確認されたが、生貝の個体数は非常に少ない。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。



1, 2: 西尾市佐久島, 2016年6月4日, 3: 蒲郡市三河大島沖(ドレッジ水深2-5 m), 2002年5月23日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約 15 mm の低い塔型で、殻は白色で螺層に褐色の色帯がある。殻表はやや強い縦肋がある。蓋は革質で濃褐色。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息地、個体数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、西太平洋。国内では房総半島・佐渡島～九州まで分布する（木村, 2012）。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように現在でも生貝が少数採集されているが、生息場所、個体数とも明らかに減少している。

【保全上の留意点】

上述したように県内潮下帯の環境を保全する。本種はアマモ場周辺で生息が確認されているので、同様に保全することが必要であろう。

【特記事項】

レッドデータブックなごや 2010（木村, 2010）では、本種と正しく同定された名古屋港沖産の生貝標本が図示されていたが、レッドデータブックなごや 2015（木村 加筆 川瀬, 2015）では他産地の死殻標本に差し替えられている。その地で採集された貝類の画像はレッドデータブックの大きな資料（データ）の一つなので、他産地や状態の悪い標本は使用しないことが望ましい。

【引用文献】

- 早瀬善正・木村昭一, 2020. 佐久島（三河湾）の潮間帯貝類相. ちりぼたん, 50 (1): 33-79.
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2010. セキモリ, p. 211. in: レッドデータブックなごや 2010 (2004 年版補遺), 316pp. 名古屋市環境局.
木村昭一, 2012. セキモリ, p. 63. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
木村昭一 加筆 川瀬基弘, 2015. セキモリ, p. 443. in: レッドデータブックなごや 2015 動物編, 503pp. 名古屋市環境局.
松岡敬二・木村妙子・木村昭一・三谷水産高等学校増殖部・山口啓子・高安克己, 1999. 豊川下流域の貝類相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 9: 15-24

(木村昭一)